

平成29年度 第一回生活支援体制整備事業1層協議体会議

日 時 平成29年9月26日（火） 午後2時～4時
場 所 団体活動室Ⅰ、Ⅱ
出 席 成田、梅本、中村、渡辺、石田、鶴岡、吉田
入江（8名）敬称略
健康福祉部五十嵐部長、高齢者福祉課：緑川課長、
鈴木、三笠、大澤、野口、社会福祉協議会：仲山、
渡辺、秋本（事務局）

1. 開会

2. 社会福祉協議会副会長あいさつ

本日、体調不良のため会長欠席に付き代理で挨拶

日頃より、皆様には地域福祉の推進、また社会福祉協議会に対して暖かいご支援をいただき、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

さて、全国的に生産年齢人口の減少や高齢者人口の増加が進み、公的制度である公助のみで地域福祉を支えていくことが困難な時代になりました。

これからは、地域の支え合いを中心とした互助や共助の活動を一層充実していかなければなりません。

そういう意味から、昨年度より市から受託しております「生活支援体制整備事業」に第一層と第二層の協議体を設置し、住民主体の地域づくりを生活支援コーディネーターが中心となって確立していくことが求められています。

皆さまにおかれましては、大変お忙しいなか、第一層協議体の委員として関わっていただくこととなりますが、大所高所から事業の円滑な推進にご協力いただきたいと思います。どうか宜しくお願い致します。

3. 委嘱状交付

4. 会長の選出 中村良雄委員

5. 会長あいさつ

各委員あいさつ

事務局紹介

配布資料差し替え

生活支援体制整備事業設置要綱第3条（5）地域包括支援センター削除
（事務局となるため）

6. 議題

- （1）生活支援体制整備事業第1層協議体について（白井市地域包括支援センター）
～地域全体で見守り・支え合う白井～（別紙参照）

生活支援体制整備事業と白井市の高齢者の現状と課題について

P3 図2

国勢調査より、白井市高齢者人口（H27）が、10年前と比べ2倍近く増加している。

地区別より高齢者人口の多いところから順に、富士、堀込、清水口。

図には10か所記載。

高齢化の順番として、全地区の高齢者人口の割合 中、神々廻、河原子、谷田の順。
10年間で高齢化率、9.5ポイント増加している。

図3 高齢化率の推移

図4 一人暮らしの高齢者世帯の割合が多いところ

P4 図5

一人暮らしの高齢者世帯数の地区別上位10地区記載

今後どうなってくるのか？2025年には、75歳以上の高齢者の人口割合が約2倍になる。

P5 図6（図6のH27（実績の数値 5395人と記載を入れる）

介護度 75歳以上の方が要介護という状況の割合が高くなって来る。

高齢者福祉計画より、10年間で要介護（要支援）認定者が2倍になる予想

P6

白井市の特徴

平成37年、後期高齢者（2025年）の割合が2倍に増える。

白井市は、国や県より上回る速度で増加する。

P7

地域生活ケアシステムについて

75歳以上の高齢者が増えるようになるのか？

高齢者施設不足等10年30年すべての方が安心して暮らせるには何が必要か？

すべての方の力を使って、仕組み作りをすすめていくことが地域包括ケアシステムと言われている。

P8

地域包括ケアシステムの鉢植え図の説明

第1層協議体は、介護予防・生活支援の鉢植え図の土の部分、高齢の方が何があっても困らないで暮らしていけるのが、見守り、暮らしの支え合い。現在は、介護保険の公的サービスだけになっているが、プラス介護保険以外のサービスを充実させて

いくことで、図の土の部分を実質させて、必要な方に専門的なサービスを行きわたるようになっているというのが生活支援体制整備事業である。

P9～P10

生活支援コーディネーター、協議体は多様な資源の創出と社会参加の促進
元気な高齢者、リタイヤした方々を生活支援の担い手の参加につなげるということも
目的にある。

支援が必要な方と必要なサービスをつなげていくことをマッチングという。

昨年から社会福祉協議会に委託し行っている地域ぐるみネットワークふれあい会議
は、第2層協議体にあたる。

第2層協議体A圏域、B圏域に分け小学校区単位で会議を行っている。

第1層協議体は、市全体として課題、必要なものは何かを話し合うもの。

生活コーディネーターは、窓口、会議やサービスの活動の継続支援をする。

P11

ふれあい会議で生まれた取り組みについて、事例を紹介

質問・意見

委員：生活コーディネーターは、だれか？

事務局：第1層協議体、社会福祉協議会秋本、第2層協議体、仲山、渡邊

委員：生活コーディネーターは、地域で分けているのか？

事務局：地域で分けていない。

(2) 生活支援体制整備事業第2層協議体の報告 (社会福祉協議会)

生活支援体制整備事業(地域ぐるみネットワークふれあい会議)別紙参照

P1

H24地区連携会議開催 市内2地区で1回ずつ「ふだんの高齢者の見守り」について話し合い。

H25中心メンバー会議に変更、市内2地区で「高齢者の見守り、支え合いのための取り組み」を話し合い、ここでは複合センターで梨の実ひろば、高齢者見守りネットが南山から始まった。

H26地域ぐるみネットワーク会議が始まった。全小学校区で話し合いを行った。

P2

地域ぐるみネットワーク会議の位置づけは、H27介護保険法の改正により創設された「生活支援体制整備事業」とした。市町村を主体とし、3年の移行期間平成30年度から完全実施。

生活支援体制整備事業は、日常生活上で支援を要する高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために地域で高齢者を支え合う体制づくりをつくるというもの。

P3

生活支援コーディネーターは、助け合い活動の創出及び利用を推進する調整役
協議体は、生活支援コーディネーターをサポートし、互助を中心とした地域づくりを住民主体で進め、助け合い活動を共に創出・充実する組織。

コーディネーターの役割は、協議体メンバーと連携をしながら、日常生活上の多様な支援体制の充実と強化、高齢者の社会参加などの推進を一体に担っていく。

P4

第1層コーディネーターの配置H29年度中に設置。

3月に説明会を行った。

地域ぐるみネットワークをふれあい会議としているものが、第2層協議体。

P5

A圏域：B圏域の実績は別表の通り

P6～P9

富士地区：ふじ元気ひろば こどもを含めた世代間の交流を進めている

清水口小学校区：ぼっちクラブ 独りぼっちのぼっちからネーミングしている

一人で食事をとっている人を対象にした食事処

あいのねサロン 巡回型サロン

おやしサロン 男性の参加が少ないところを考慮して、お酒の飲めるサロン

第一小学校区：はしソロビック 地域の交流会を目的にそろばん博物館の協力で実施

南山小学校区：買い物支援 現在南山中学校区で実施（買い物のお手伝い）

見守り 桜台、池の上小学校区で実施（訪問型見守り）

H29～市全域へ拡大

P10

第2層の活動について、各地域でのサロン活動を更に周知していく

「お元気見守り事業」

見守り事業：社会福祉協議会で見守りのコーディネーターを配置した。

パートナー、コーディネーター研修、マッチングを実施

P11

買い物支援バス開始 南山中学校区において8月～実施

運行用のバスは、菊華園の協力により運行

第1層協議体の会議スタート

第1回会議本日開始 年間3回を予定

内容については、第2層についての会議報告や市全体で必要な事は無いか等の話し合い協力をいただきたい。

質疑 第2層協議体報告から

委員：この対象者（高齢者は）おおむね65歳以上でしょうか？

事務局：活動して頂ける方は65歳以上とは限らず年齢制限はない。

(3) 第2層協議体の現況活動について（買い物支援などであればよいと思うもの）（社会福祉協議会）

買い物支援について

利用者募集、協力者説明会を経て募集 現

在のところ利用者12名 協力者15名

8月24日スタート 市内スーパータイヨ

ーへ 買い物時間は約40分

送迎用バスは菊華園のマイクロバスを利用、

ご自宅まで送迎、協力店等スーパータイヨ

ーと菊華園と協定書を結んでいる。

実施までの流れは、利用者登録→希望利用日の確認→調整後利用者へ連絡→買い物へ

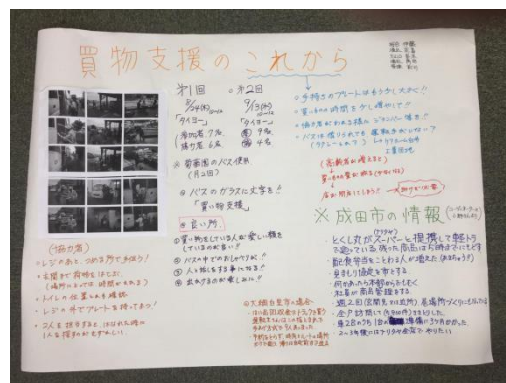
協力者登録→買い物支援について説明→希望日により調整→買い物へ→報告書記入
協力者より、色々なご意見も出ているので10月11日（水）地域ぐるみネットワークふれあい会議にて、この買い物事業を来年度どうするか意見交換をいただく予定。

この事業も、住民主体で行っていただくことを考え、リーダーを決めリーダー中心



で動けるよう促す予定。

買い物支援実施中、住民の方の興味は、高くご質問も多い。第2層協議体（地域ぐるみネットワークふれあい会議）でも、ほかの地域の方からこの事業はどのように進めているのか？どうしたらできるのかなどのご意見がある。



質疑

委員：今は南山中学校区だけの事業ですか？

事務局：そうです。堀込、南山、池の上、笹塚が対象地区。

協力者には重いものを運べない方のため、ご自宅まで運んでもらう役割もあります。

委員：買い物してきてもらうこともあるのか？

事務局：色々なやり方があると思うが、現在の事業は一緒に行って買い物するものです。

買物支援が色々な地域で日常生活に必要なのではという意見が多いので、買物支援について皆さんにご意見を伺いたい。

こんなものがあたらいいな！

テーマ「買い物支援について」のグループワーク開始



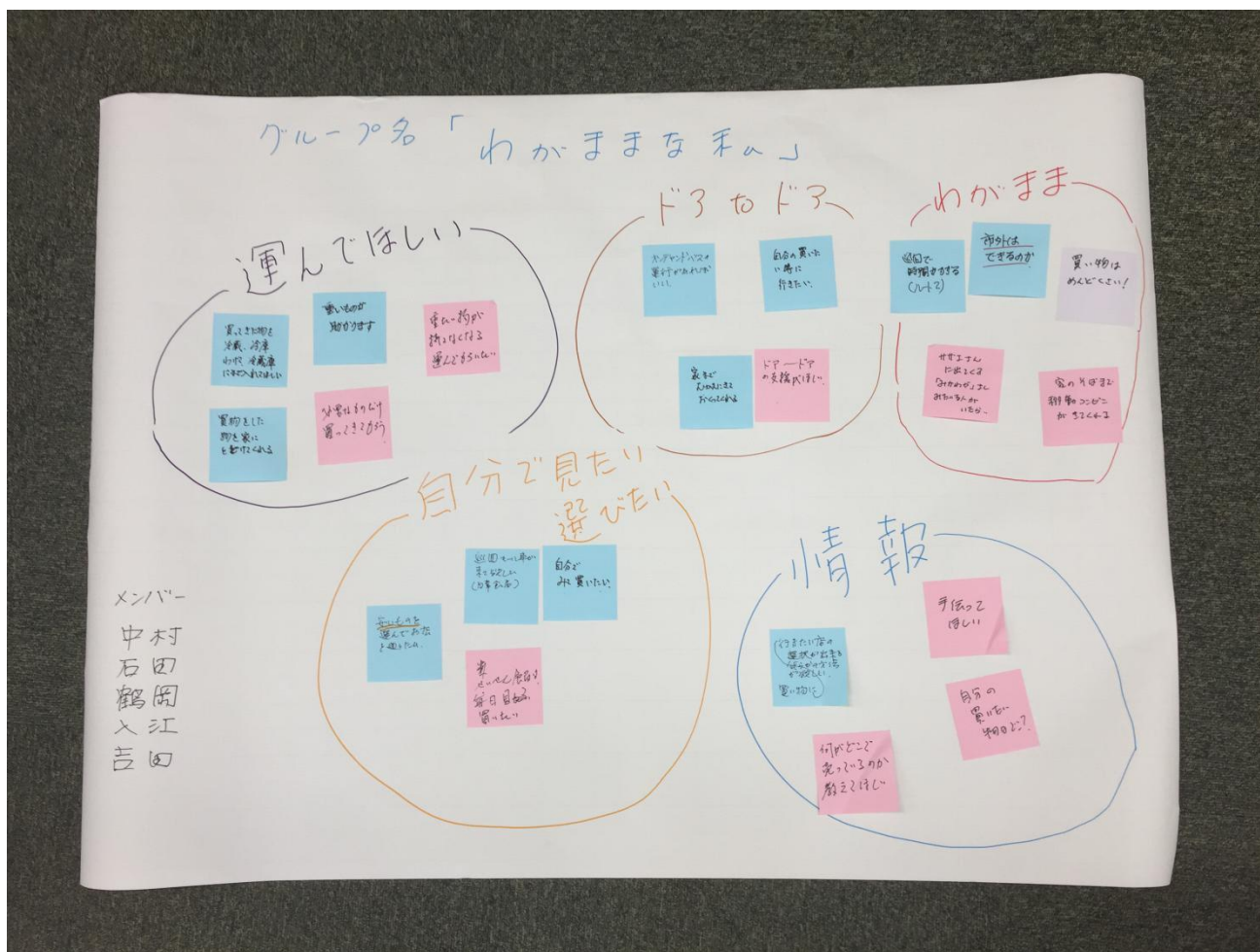
発表

グループ名「わがまな私」



グループ名「男の素敵な一人暮らし」



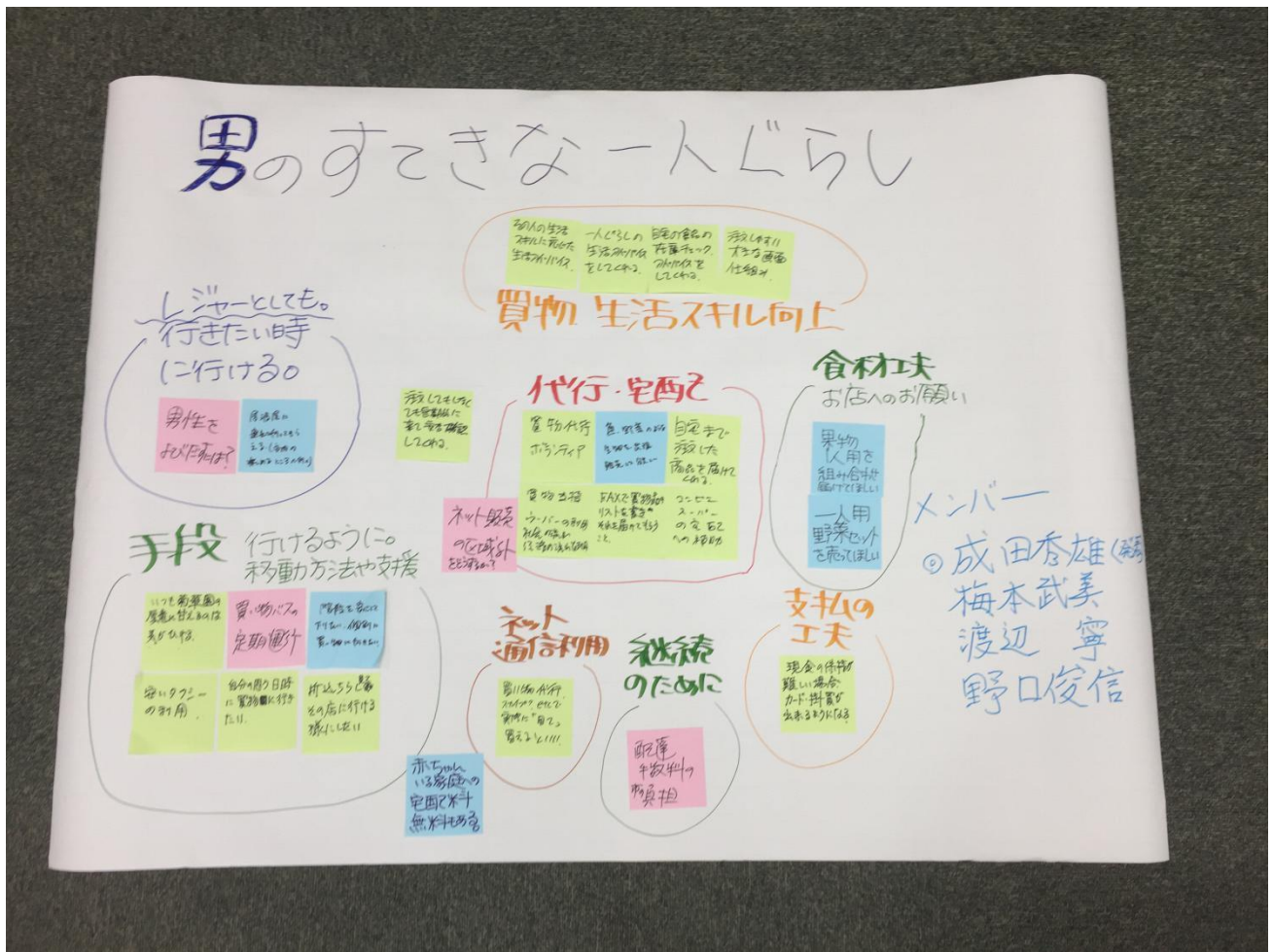


発表者

委員：情報がほしい。自分で見たい選びたい。運んでほしい。ドア TO ドア
という意見をまとめた。

事務局：南山地区でも自分でという希望もあり、そういう方式で行っている。

本当に行きたいところに行ける。という事がわがままではなく、普通なんだということ。私たちが普通に行っていることができないことなので。



発表者

委員：例えば、パチンコに行きたい、お酒が飲みたい。女性だと中々出てこない意見だと思いますが。

スカイプを使って、スーパーで買い物をする。（あと数年すれば75歳代でも出来る想定）

買い物代行、低料金のタクシーで利用できる。（行政補助の想定）

1人用の食材販売が欲しい。カード払いの支払いがもっと多くなるとか。

委員：買物の配達料が安くなる。（行政が）そうになると、配達する事業所も増えると想定する。
男性は合理的な意見が多く、行政の支援を期待したい。

委員：若い人の中では、小さい子供がいる世帯には、低料金にしてくれる事業所もある。
そういったことが、高齢者世帯でもあればいい。

事務局：ひとり暮らしの生活のアドバイスでは、男性は普通の生活が困難事があるのでアドバイザーがいるのは良い。

男性が、色々外に出て行くことは良い。

第2層協議体（地域ぐるみネットワークふれあい会議）の話し合いでは、メンバーが

固定してきているので、今日の第1層協議体のご意見を伝えていきたい。

(4) その他

- 次回会議12月を予定
- 内容については、また後日日程と併せてお知らせする。